

令和5年度第4回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和5年7月19日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
大西 秀典（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 副院長）
石山 俊次（石山泌尿器科皮膚科）
オブザーバー : 市原 拓（岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長）
事務局 : 八代 英彦（感染症対策推進課 管理監）
汲田 淳（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）
可知 正行（感染症対策推進課 主任技師）
今尾 幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）
岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題（進行：大西委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (4) その他（感染症対策推進課から）

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○RSウイルス感染症の流行について

- ・小児がり患すると呼吸器症状が重篤化して入院に至るケースが多く、小児科病棟の病床数が非常にひっ迫した状況となっています。
- ・小児科診療をひっ迫するほど影響力の強い感染症でありながら、その認識が一般的に低いことも感染を拡大させている原因となっているかもしれません。本来は流行がピークに達する前に注意喚起を行うことが重要だと思います。
- ・本感染症の検査は全ての年齢層では行われないため、実際の患者数は報告されているよりもかなり多いことが考えられます。